

すくすく泉事業採択・評価委員会 議事要録

○日 時	平成 28 年 7 月 19 日 (火)	午後 4 時 40 分～ 5 時 50 分
○場 所	武蔵野芸能劇場	小ホール
○出席委員	榎田委員長、吉田副委員長、松田委員、鶴川委員、大杉委員	
○事務局	子ども政策課長、子ども育成課長	他

1 開会

事務局より資料確認

2 議事

(1) 平成27年度事業実績について

※運営団体NPO法人いずみの会が入場

<平成27年度事業実績について説明>

【いずみの会】

この5月に総会が行われ、理事会が一新された。新しい5人の理事のうち、4人は地域で活躍してきた人材。新しい体制で頑張っていきたいと思っている。

ひろば事業と一時預かり事業、さらに4月から小規模保育事業（B型）となったグループ保育があるが、それぞれミーティングを重ねて順調に事業が行われている。

保育事業は、保護者との関係も安定している。命を預かる事業なので、今後アレルギー対応や、S I D Sといった問題にも気をつけながら進めてまいりたい。

一時預かりのほうも、最大5人を預かるが、ひろばと同じスペースで行っているので、スタッフだけでなく、ひろばにいるお母さんたちも含めて、複数の子どもをみんなで見ていこう、という心意気で行っている。とても良い言葉の掛け合いや、協力ができている。

ひろば事業については、来所者が増えており、10組で1枚の名簿だが、3枚から4枚になる日が多く、プール遊びや庭遊びを呼びかけたり、一時保育もそうだが、工夫して過ごしている。お母さま方からは、いろいろなことを相談できて安心だ、ここがあるので子育てができる、本当に楽しいです、などとおっしゃってくださることもあり、有り難く感じている。

今年度はミーティングを定例化して、専門の先生からの助言も共有し合うような形を取っている。研修は今後も進めていく。アレルギーや食育についての指導を受けることも継続したい。

また、地域との関わりを持つことを常に念頭に置いている。他の保育園から庭に来てもらったりということもそうだが、公園を利用したイベントも考えている。1年を通して、昔遊びカフェとか、地域と関わりのある行事も数多くある。

#### <資料4 委員事前質問一覧に対する回答>

##### 【いずみの会】

一時預かりについて、2歳以上の利用もあるのかという質問だが、これはある。1番多いのは1歳児だが、次に多いのが2歳、0歳がほぼ同じ割合。この割合は開設当初からあまり変わらない。それより上の子どももいて、夏休みになると幼稚園児や小学生も増える。本日、明日とも5歳児の予約が入っている。通常期でも土曜日は大きい子が来る。

一時預かりについて事業効果として「その先にある地域での預け合いの入り口という役割」という言葉があるが、どのような広がりイメージしているのか、という質問だが、これについては、開設当初は何かあった時のために一時預かりを登録しておこうという人が多かった。それが、最近は何か用事があるて登録してすぐ利用するということがほとんどで、子育ての中で預けることへの心のハードルが下がっていると感じる。今後はひろばの利用者同士での預け合いとか、少しの時間であれば「私がひろばで見ているわ」、とか、そういった地域での支えあいができる入口になればと思う。

グループ保育事業の効果として、子育て支援に関するものが挙げられているが、子どもの保育に関する事項はないのか、という質問については、資料1の中の「達成目標に対する評価・反省」の欄に記載している。補足すると、保育室は定員10人と少人数だが、スタッフは5人と多いので、ひとりひとりを愛して育てるとか、自然の中で色々な体験をさせるとか、そういうことは十分心掛けている。ほかの公園に行っても、いずみの子どもは表情が豊かだと感じる。

グループ保育のスタッフ間の関わりを一貫した関わりとして共有する工夫とは、どのようなことを考えているのか。また、指導計画はどのように共有されているのか、という質問について。まず、保育士を中心としたコアスタッフミーティングで今後の保育の方向性や個々の関わり方の計画を立てている。さらに、通常の研修を受けたお母さんたちのスタッフともミーティングを行い、考え方を共有している。実際の場面で関わり方にずれが生じた場合は、お昼寝の時間にノートに書いてお互いの考えを突き合わせるなどしている。互いに話せる雰囲気作りを心掛けている。個々の、たとえば嘔みつきの事案などは、その都度、個人名をイニシャルにしたメールなどで、配慮について引継ぎを行っている。

スタッフの確保状況、有資格者の割合について。小規模保育は18名中9名が有資格者。一時預かりは17名で、このスタッフはみな研修を受けている。ひろばは7名中2名が有資格者。給食は3名中1名が栄養士で、あとは調理師。保育室のほうは基準どおりの人数で行っており、1日を通して有資格者は2名確保するようシフトを組んでいるが、これはなかなか大変な状況。1日通じてシフトに入るのではなく、人を組み合わせるので。

子どもの欠席が多数出る等の当日の急な変更にはどのように対応しているのかということだが、シフトを組んだ後、前日までにキャンセルが入った場合は、スタッフには60パーセントの賃金を払っている。当日のキャンセルでスタッフが出勤した場合は、普段できない物置の整理や製作物、事務などをお願いしている。

小学校、保育園との連携とは具体的にどのようなものかということだが、学校は保育園との交流を授業の計画に入れていて、先日も井之頭小学校の1年生と交流する機会があった。また、まちの保育園とは日常的に砂場で道具を貸し借りするなどするほか、提携園な

ので、人形劇を見に行かせてもらったり、スタッフ間の学習会をしたりしている。

地域との関わりについて、施設運営、地域人材の活用のほか、団体として地域との関わりがあればということだが、理事もスタッフも9割がた地域の人間で、まちの中で出会えば挨拶もするし、ボランティアの方には、読み聞かせをしてもらったり、泉文庫の活用で協力してもらったりしている。また、私たちのほうで、コミセンの親子ひろばに出張したり、中学生が赤ちゃんと触れ合う体験に来たり、ほかにも地域のお祭りや、プレーパークに来てもらったのイベント、昔遊び、などさまざまな交流がある。

前回に引き続き、返還金を活かせなかった理由は何かということだが、資料の中の予実対比を見てもらうと、市の補助金が1,000万円の予算に対して実績が660万ということで、300万円使いきれなかった。1番大きな理由はスタッフの給与。もともと時給900円くらいでスタートしていて、これは保育士として定職を持っている人の3分の2くらいの給与レベル。予算を立てた当初は、給与にして5割増しに近い常勤の有資格者をある程度雇用する予定だったが、なかなか人が集まらなかった。いまは少しずつ来ているが、まだ地域のお母さんで、子どもが小学生だから1日3、4時間だけ働くという人が多い。あとは、管理費のところがあるが、研修の予算をかなり立てたものの、やはりスタッフも子どものために早く帰らなくてはいけないとか、研修の枠が少ないとかいったことで、予算が余ってしまった。これは、常勤職員がふえれば、ミーティングの中などで対応できる部分かと思う。27年度は運営体制の強化を目指したが、現実にはできなかったということ。今後不要というわけではなくて、人を増やしたいということは変わらない。

#### <質疑応答>

以下の質疑応答が行われた。

##### 【副委員長】

時給が通常920円というところは、有資格者との差はどの程度あるのか。

##### 【いずみの会】

いままで差をつけていなかったが、現在は時給で40円の差をつけている。

##### 【委員】

5月で理事会が一新したが、うまく行っているのか。

##### 【いずみの会】

NPOであまり例がないと思うが、5月に前の理事十数人が全員辞めて、新理事が5人就任した。これまで施設の運営に携わってこなかったメンバーだが、現在は、現場スタッフがしっかりと自分の仕事をして、理事はそれをサポートする、という考え方のもと、前向きに進めていこうとしている。

##### 【委員】

常勤の保育スタッフが雇用できなかったということだが、いまは民間でも常勤の保育士の確保が難しい。NPOとして雇用するのはなかなか難しいのではないか。同一職種同一賃金という考え方もあるので、常勤でない方にも常勤と同じ程度の賃金を払って、いい人材に長く続けてもらう方法を考えてもらえればと思うが、いかがか。

##### 【いずみの会】

いま現実に、資格を持っていないが、920 円程度の時給で働いている人は、非常に優れた人材が多い。地域のために貢献しようという意思を持った人がここに参画してきている。コアになる人は指導的立場で雇用して、受け入れ能力の高いほかの人たちをバックアップしてもらおうという意味で、給与の差は付けざるをえないと考えている。そういうコアな人材も時給 1,000 円程度ということでは優秀な人に来てもらえない。そういう人材が来て、全体の運営に自信がつけば、一般スタッフの時給も上げられると思う。いまは、そういう模索をしているところで、920 円を 940 円にしたという程度。

#### 【委員】

本日は施設見学もさせてもらって、丁寧であたたかい空間で、雰囲気も良くなったと感じた。ひろばと一時預かりと小規模保育が一緒になっているというのはなかなか例のない、新しい挑戦だと思う。人を見つけるというのはなかなか難しく、資格やすばらしい経歴がある先生で、あの場を理解して引っ張っていってくれる、という人がいるかという、難しい。それよりも、いまいる人が、実践の中でやっていくことが良いと思う。変に年度末に余ったお金を使ったりしていないのは素晴らしいが、コーディネート役の人だけは少し保障があってもいいかと思うのと、中の人研修で資格を取っていけばいいのではないか。そういう人への研修のバックアップとか、そういう人材養成の計画はあるか。

#### 【いずみの会】

保育については、スタッフでも資格試験を受ける者はいる。保育していく中で、力が上がってきているのは感じる。保育だけでなく、コーディネートや計画や、避難訓練といった、いろいろなことを誰もができるように、いまは仕事を振っているところだ。実際に仕事をして、職務内容、職責と、保育に入る時間が不釣り合いな部分もあって、難しいと感じる。8時間入れるような人は他の職場にもう勤めていて、ここは、短時間だが、家事や子育てと両立ができるから働くというスタッフが多く、それが特色。常勤を雇うというのはなかなか難しいことが分かってきた。6時間程度でも、ある程度入っている人は待遇を改善するとか、そういうことも必要と思うが、そうすると給与事務が大変になり、どこまで細かくやるのかは課題と考えている。

ひろば、一時保育でも、保育士資格を取ることを志している人はいるが、いまのところ施設としてバックアップすることはしていない。研修の情報は周知しており、皆忙しいが、手分けをしてなるべく出て、結果をシェアするようにしている。ほかにも日々のミーティングで情報共有してスキルアップを図っている。

#### 【委員】

研修は有給で行けるのか。

#### 【いずみの会】

ものにもよるが、施設として受けてもらいたいものについては、プラスで出したりしている。ミーティングにも時給は出ている。ほかにも、今度、まちの保育園からの紹介で、講師を呼んでの研修も考えている。今後こういうスキルアップの部分には力を入れていきたい。

#### 【委員】

常勤で2人つけば、ひろばやっています、みたいなどころも多い中で、いろいろなま

ちの人がいる意味はあると思う。業務以外の部分でも、それぞれまちのことをしているのだと思うが、ひろばとしてのアウトリーチを具体的に教えてもらいたい。

**【いずみの会】**

コミセン親子ひろばのお手伝いとして何度か出向いたが、今後、施設としてコミセンのひろばを実施する方向で動いてはいる。地域のイベントにも、ミーティングで人を募って出ている。

**【委員長】**

体制が変わって運営もスムーズになったのかと思う。さきほどミーティングという話があったが、理事会とは別に運営会議のようなものもあるのか。

**【いずみの会】**

コアのスタッフと、アドバイザーの先生を含めた現場会議を月1回程度、必要に応じて行っている。

**【委員長】**

ここで質疑を終了します。いずみの会の方々はこちらでご退場ください。

**※NPO法人いずみの会が退場**

**<審議>**

**【委員長】**

それではいずみの会の説明、質疑等を踏まえて審議に入りたい。27年度の補助事業が適切に実施されたかどうか、必要な意見を付けるべきかということを議論したい。まず、27年度事業が適切に実施されたかどうか、いかがか。

**【委員】**

ひろばに関しては、狭いのがたくさん来ているという印象。丁寧に十分やっていると思うし、現場の空気もよい。一時預かりとひろばの融合について、来所者も馴染んできている。医療ケアが必要な子どもも、丁寧に受け入れている。

**【委員】**

保育についても、地域の待機児対策に貢献している。一時預かり事業も月ごとに状況が良くなっている。年月を経て、地域の信頼を得てきたように思う。

**【委員】**

施設の雰囲気も良い。面積が狭いのは仕方がないが、制約のある中で、よくできていると思う。

**【副委員長】**

特に問題なく事業が実施されていると感じた。

**【委員長】**

では、平成27年度の第1回の委員会に出した意見に対しても、対応が進み、適切な運営がなされているということによいか。

何か特別に意見を付しておくことはあるか。

**【委員】**

やはり人材の確保については、特にこういう小規模の施設では大変だと思う。ただ話を聞くと、短時間で働いても良いという人がいるということなので、そういう方をうまく集めることができればと思う。やはり賃金は上げて良いのではないか。予算も余っている。

【委員】

ただ、ひろば事業のほうなので、保育のほうとは違う。

【委員】

ひろばのほうも予算が余っているので、もっと人にお金を投入していいのではないか。

【副委員長】

学生のアルバイトでも区の保育園などは1,000円とか、1,050円は出る。なぜ920円なのか。パートや短時間なのでという話もあったが、見方を変えれば、そういった人をすごく低く見積もっている。それも、いま働いている方に少し失礼ではないか、と感じた。もう少し見直せるのであれば。

【委員】

運営にもう少し関わってもらえれば、少し上げられるのではないか。本当にパートタイマーで、現場にぱっと入って、子どもたちだけ見て帰る、という人に上げるのは、怖くてできないのではないか。

【副委員長】

ただ、学生であれば1,000円もらえるのに、資格のある人でも960円というのは少ないと感じる。

【委員】

ひろば事業というのは、もともと地域の予算が少ない。

【副委員長】

ここに限った話ではないが、保育現場で保育者がすごく低く見積もられていることにも憤りを感じるところなので、専門職はもう少し評価してもよいのではないか。

【委員長】

小規模保育事業のほうも常勤のスタッフが少ないのか。

【事務局】

小規模保育事業のほうは、市の基準が守られているので、問題ない。

【委員】

武蔵野市は要綱でひろば事業にも保育士資格を必要としているのか。

【事務局】

必要としていない。

【委員】

一時預かりは2分の1が有資格者ということか。

【委員長】

2分の1は小規模保育。一時預かりは研修でやっている。

【委員】

では、一時預かりとひろば事業は保育士資格をベースに事業が組み立てられていないということか。そういう場合、時給換算の要素がないので、先ほど、運営に係わっていく人

を増やしていきたいという話があったので、そういう人の子どもが育ち上がるのを待っているのかな、と感じた。

**【委員長】**

では人材確保のことにに関して、何か一言意見を付けるか。

**【委員】**

内部で研修を奨励して、有給で後押ししているという話は良いと感じた。そういったサポート、内部での人材育成を今後も続けてもらいたい。

**【委員】**

法人としてバックアップをしてもらえれば。

**【委員長】**

そうすると、研修等への法人からのバックアップを続け、人材育成に努力を続けていくように、という意見をつけるか。給与の件は、小規模保育のほうはきちんとされていて、ひろばと一時預かりはこういう状況だということなので。

**【委員】**

103万円の壁を気にする人もいて、1年間で働ける時間が決まってしまう場合もある。

**【委員長】**

では、「平成 27 年度第 1 回委員会での意見への対応が進み、改善されていることを確認した。28 年度事業計画を実施していくにあたって、法人内での研修等へのバックアップを続け、人材育成に努めてほしい」という意見を付けることとしたい。

### 3 閉会